

2020.12.20

## Report from AKATSUKA PARK

赤塚公園武蔵野台地崖線植物モニタリング活動

# 開花記録表(植物の動き)を 1月~4月に貼りかえました

赤塚公園サービスセンターは、園内の武蔵野台地崖線に生きている植物の開花記録を、季節ごとに、また地区ごとに一覧表にしてロビーに掲示してきましたが、新しい年を迎えるにあたって、1月から4月までの表に貼りかえました。

掲示してあるのは1~4月までに開花が観察された植物が中心なので、生育しているすべての植物をフォローしているわけではありません。それでも、この5年間で、一年中どこかの季節で開花を観察できた種は、次のように実にたくさんあります。

城址地区で 約 **299** 種

八丁目の林の周辺で

約 **146** 種

大門地区で 約 **223** 種

「雑草」とか「雑木」と呼ばれる植物でも、一つひとつに個性があり、すべてに名前が付けられていて、健気に命を燃やしています。

しかも、赤塚公園で生きている植物はこれがすべてではありません。2008年から2013年にかけて行われた環境省提唱の「モニタリングサイト1000里地調査」では69科、320種が確認(注)されているのだから、園路から普通に歩いて観察するだけでは見つけれない植物がまだまだたくさんあるということです。

(注: いたばし自然観察会・区の花ニリンソウを保存する会発行『残そう! 崖線の自然』より、大門・番場・沖山地区対象)

### 同じ崖線でもエリアによって環境が異なる

記録表では開花が毎年続けて観察できなかった種(植物の名前)や同定(植物の名前を確定すること)が出来なかった種などを除いているのですが、それでも1~4月だけでも記録すべき植物はこんなにあって、掲示スペースが足りません。

モニタリングで大門地区から城址地区までを3つのエリアに分けて記録していますが、それは各エリアの環境が異なっているからです。このように表にしてみると、そこに生きている植物の種数も違えば、植物の相も異なっていて、それぞれのエリアに特徴があることも分かります。

